

科目コード	2655543		授 業 概 要	【授業内容】17世紀は科学と哲学の革命が起こり、現代の社会と文明の思想的基盤が作られた時代です。初期近世哲学は一般に「合理論」と「経験論」の展開により特徴づけられますが、授業では、デカルト、スピノザ、ライプニッツの三人の巨人を中心に、哲学の基本問題を論じます。知識の哲学、身体論、神学政治、感情の哲学、存在論、歴史哲学の諸問題を取り上げ、それぞれの歴史的文脈を説明するとともに、現代的観点からその意義を論じます。 【授業テーマ】
学習センター	岡山学習センター			
学習センターコード	33A			
クラスコード	K			
科目名	知識・感情・存在			
科目区分	専門科目：人間と文化			第1回 序論：初期近世の緊迫した時代状況から新哲学の登場する思想的背景とその課題とを明らかにします。 第2回 懐疑：デカルトの『方法序説』と『省察』を焦点に、数学的自然科学の形而上学的な基礎づけとしてデカルトの哲学を論じます。特に「私」の存在に着目します。 第3回 身体：デカルトの『情念論』を焦点に、エリザベト王女との往復書簡を契機として、機械論の医学と主意主義の道徳を視野に入れた心身関係の問題を論じます。 第4回 宗教：スピノザの『神学政治論』を焦点に、秘蹟など聖典の合理的解釈、宗教と倫理の近代的分離の哲学的問題を論じます。 第5回 感情：スピノザの『エチカ』での「自己原因」の一元論的存在論を踏まえ、たうえて、「受動感情」の制御の倫理的問題を論じます。 第6回 存在：ライプニッツの「モノドロジー」を焦点に、「連続体合成の迷宮」の解決の試みとして「自然の真の原子としてのモノド」の存在論的問題を論じます。 第7回 悪：ライプニッツの『弁神論』を焦点に、人間の自由、(神の)正義、悪の起源の観点から歴史の哲学的問題を論じます。 第8回 まとめ：講義内容全体を振り返り、いただいた質問を踏まえ、応答すると同時に、さらに学習・研究をするために追加の説明と助言を行います。 【学生へのメッセージ】メインの哲学者たちは、大学の教員ではなく、数学者・科学者、私人、政治家として時代の激動を生きた人々です。やむにやまれず哲学しています。その問いと答えの模索が共有できればと思います。 【受講前の準備学習等】授業時に次回分のハンドアウトを事前配布しますので、関連する文献、参考書などを可能な限り、読んでおいてください。(初回分は当日お渡しします) 【成績評価の方法】成績評価は、授業中の学習状況及び試験の評点により行います。 【受講者が当日用意するもの】ハンドアウトを持参ください。 【教科書】授業当日にプリントを配付します。 【参考書】・『哲学の歴史』第5巻『デカルト革命 神・人間・自然』（小林道夫責任編集／中央公論新社／¥3,960／ISBN=9784124035223） ・『夢と虹の存在論－身体・時間・現実を生きる』（松田毅／講談社／¥2,225／ISBN=9784065228685） ・『ライプニッツの認識論』（松田毅／創文社刊、現在は電子書籍／¥7,683／ISBN=9784423171394）購入を求めるものではありません。 【その他(特記事項)】担当者のwebサイト： http://www.leibnizstudy-tmatsuda.jp です。
定員	45名			
担当講師	マツダ ツヨシ 松田 毅 (神戸大学・名誉教授)			
日程 実施時間	10月19日(土) 第1時限 9:50～11:20 第2時限 11:30～13:00 10月26日(土) 第1時限 9:50～11:20 第2時限 11:30～13:00 11月2日(土) 第1時限 9:50～11:20 第2時限 11:30～13:00 11月9日(土) 第1時限 9:50～11:20 第2時限 11:30～12:15 試験レポート等 12:15～13:00			
実施会場	岡山学習センター			